

News Release

テーブルタップなどの配線器具をチェックしましょう。 ～消費電力の大きな製品を使う冬に多く事故が発生しています～

家庭における電気製品の増加に伴い、延長コードやテーブルタップなどの配線器具を使う機会が多くなっています。これらの配線器具^{*1}を不注意に取り扱くと、火災などの事故に至るおそれがあります。特に冬場には、暖房器具など消費電力の大きな製品が多く、事故も多くなっています。今一度、配線器具を使う際に気をつけるポイントを確認し、事故を未然に防ぎましょう。

NITE(ナイト)が収集した配線器具の製品事故件数^{*2}は平成23年度から平成27年度までの5年間に合計322件^{*3}(延長コードやテーブルタップ256件、コンセント48件、マルチタップ15件、スイッチ3件)ありました。このうち火災を伴う事故は197件(約6割)で、1月など冬に多く発生しています。電源コードを繰り返し踏みつけたり、定格を超えた電気製品を接続したり、また「ねじり接続」や、電源プラグにほこりが付着したことによる「トラッキング現象」など、使用時の不注意による事故も多く発生しており、注意が必要です。

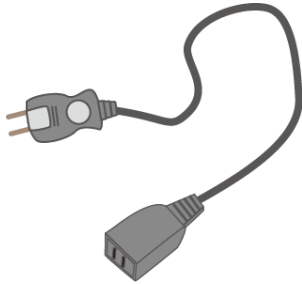
■ 主な事故事例と注意事項

- テーブルタップに電気製品を接続して使用していたところ、テーブルタップの電源コードを気づかずに繰り返し踏みつけたため、コードが断線して発火し、1人がやけどを負った。(平成26年1月、兵庫県、70歳代・男性、軽傷)
⇒電源コードに繰り返し過度な荷重をかけないでください。特に高齢者や視覚障がい者がいる家庭では、移動の際に電源コードを踏みつけることがないように、ご家族や介護の方がテーブルタップの設置場所に気をつけてください。
- テーブルタップに電気ストーブとこたつ(合計1770ワット)を接続して使用していたところ、テーブルタップの接続可能な最大消費電力(1500ワット)を超えていたため、コードプロテクター付近から発火し、周辺を焼損した。(平成27年1月、滋賀県、40歳代・男性、拡大被害)
⇒コンセントやテーブルタップには接続可能な最大消費電力が定められています。電気製品を接続する際は、最大消費電力を超えないようにしてください。
- テーブルタップの電源コードに他のテーブルタップを「ねじり接続」して使用したため、接続箇所から発火して、住宅の一部を焼損し、2人が死亡した。(平成27年3月、神奈川県、10歳代・50歳代、女性、死亡)
⇒接触不良によって発煙・発火するおそれがあるため、「ねじり接続」等、電源コードの改造や不適切な修理は絶対に行わないでください。
- マルチタップに照明器具の電源プラグを長期間接続した状態で使用していたところ、接続部にほこりが蓄積して「トラッキング現象」が生じて発火し、2階を全焼する火災が発生した。(平成28年2月、富山県、年齢性別不明、拡大被害)
⇒電源プラグはコンセントにしっかりと差し込み、定期的にほこりを掃除してください。電源プラグとコンセントとの間に隙間があったり、長期間コンセントに差したままにしたりすると、電源プラグにほこりや水分が付着し、「トラッキング現象」やショートが発生するおそれがあります。

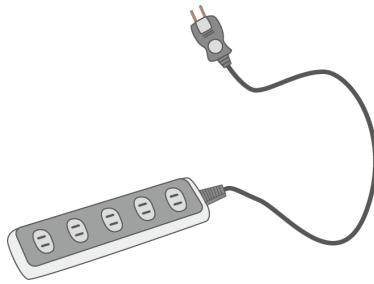
(※1) 配線器具には、延長コードやテーブルタップ（コードリールを含む）、マルチタップ、コンセント、照明などの壁面スイッチ（以下、スイッチという）を含む。

各名称については以下を参照。

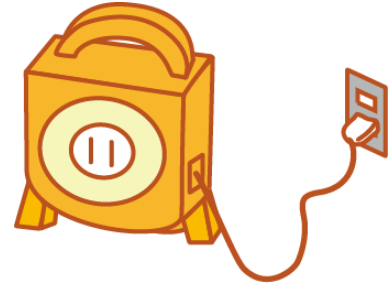
(1) 各配線器具の名称（括弧で電気用品安全法における名称を示す）



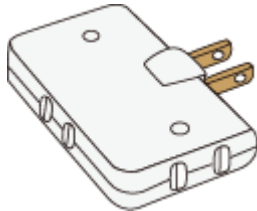
延長コード
(延長コードセット)



テーブルタップ
(延長コードセット)



コードリール

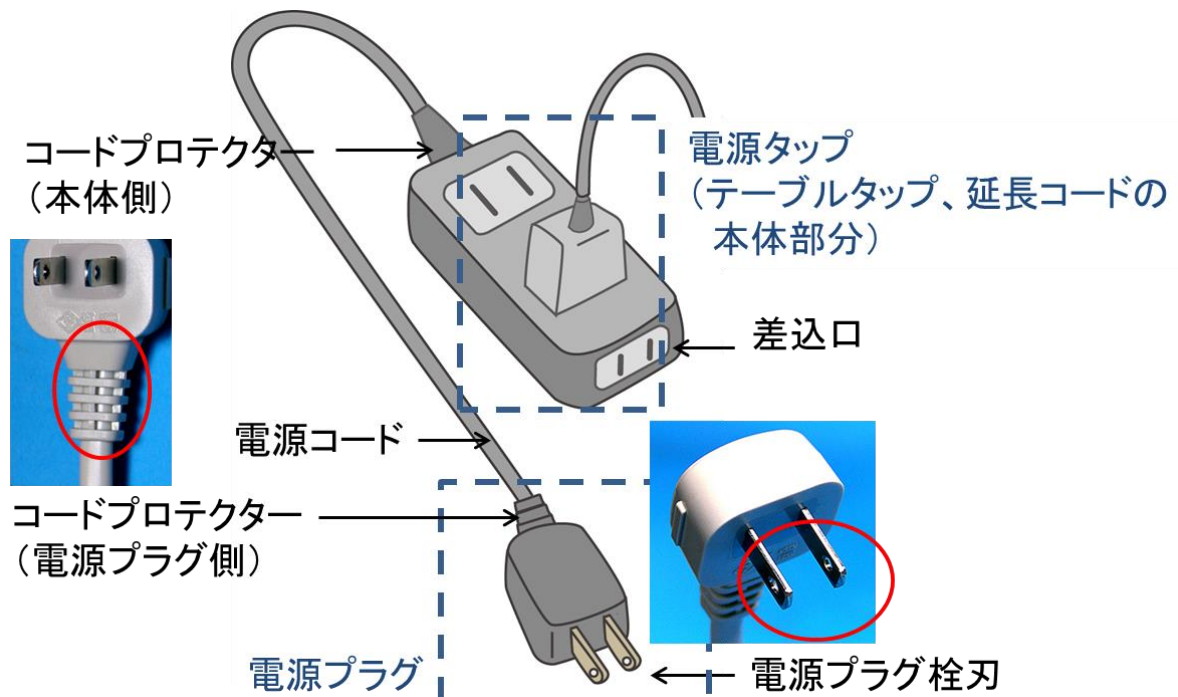


マルチタップ



コンセント
(表側)

(2) 各部位の名称



(※2) 消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集された非重大製品事故（ヒヤリハット情報（被害なし）を含む）。

(※3) 平成28年12月28日現在、重複、対象外情報を除いた事故発生件数。

1. 事故の発生状況

NITEが収集した製品事故情報のうち、平成23年度から平成27年度までに発生した配線器具による事故322件について、事故の発生状況を次の(1)～(4)に示します。

(1) 製品別 年度別 事故件数、及び被害状況別 事故件数

図1に「製品別 年度別 事故件数」、図2に「被害状況別 事故件数」を示します。

平成23年度から平成27年度までの5年間で、延長コードやテーブルタップの事故が256件、コンセントの事故が48件、マルチタップの事故が15件、スイッチの事故が3件あり、そのうち、死亡事故が7件、重傷事故が4件ありました。(別紙3参照)

事故件数を年度毎にみると、平成24年度以降、毎年70件前後となっています。火災の件数に注目すると、5年間で197件あり、増加傾向にあります。平成27年度では76件の事故が発生しており、48件(63%)が火災を伴っています。

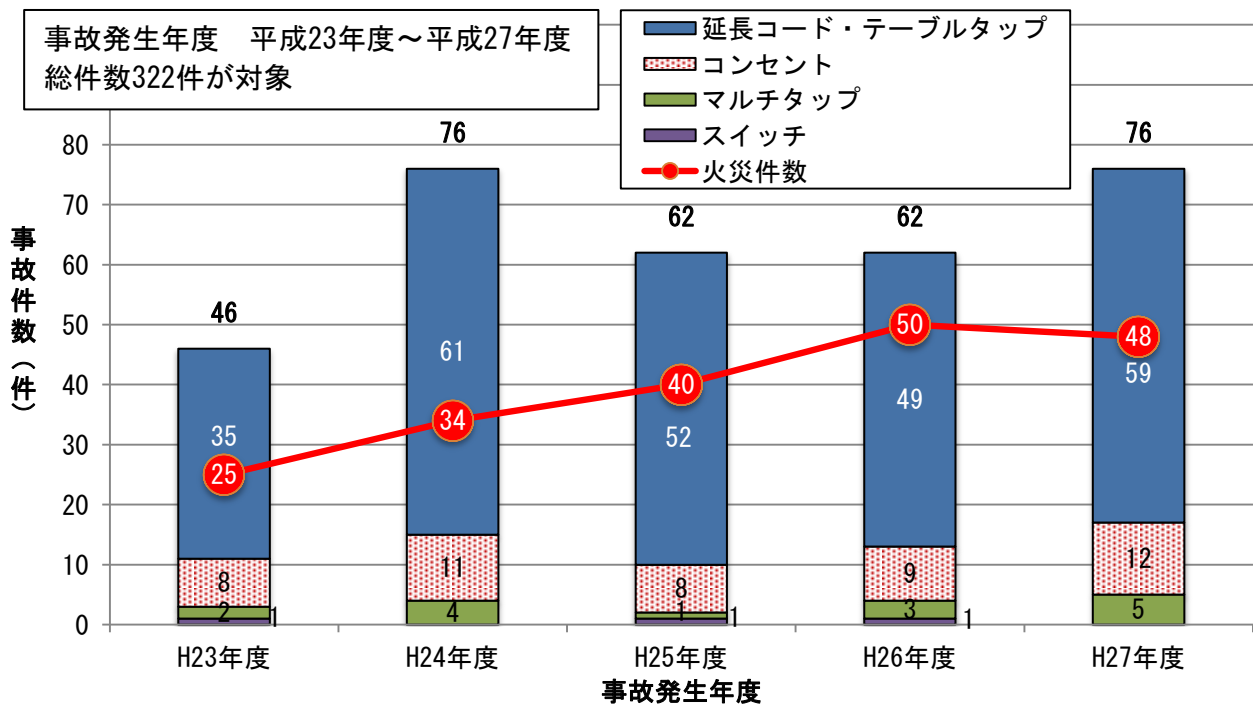


図1 製品別 年度別 事故件数

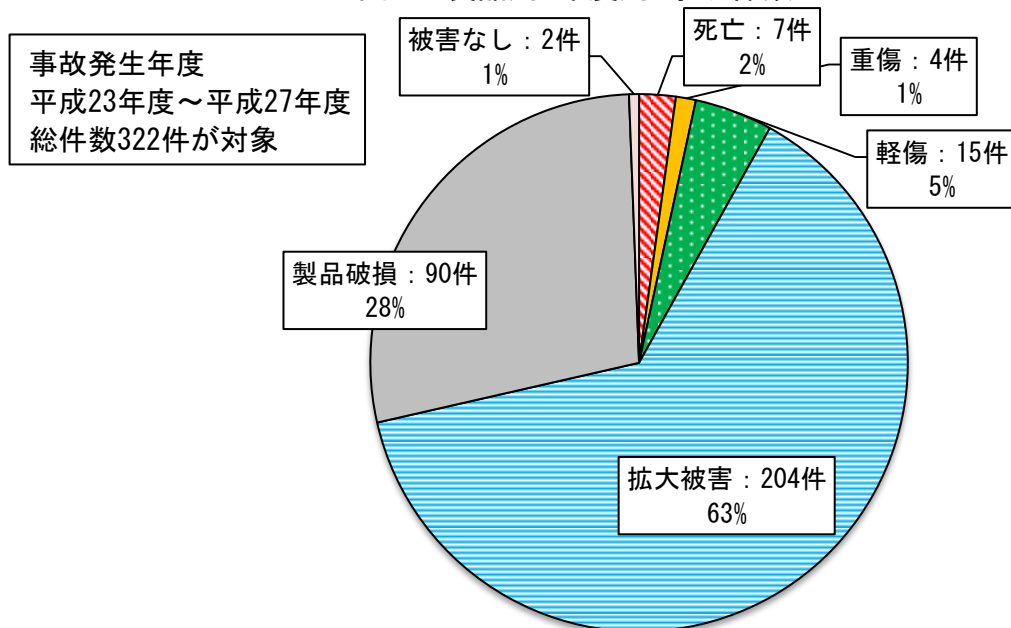


図2 被害状況別 事故件数

(2) 製品別 月別 事故件数

図3に「製品別 月別 事故件数」を示します。

最も事故が多いのは1月となっています。理由の一つとして、電気ストーブや電気ケトルなど比較的消費電力の大きな製品を延長コード等に接続して使う頻度が高くなることが考えられます。

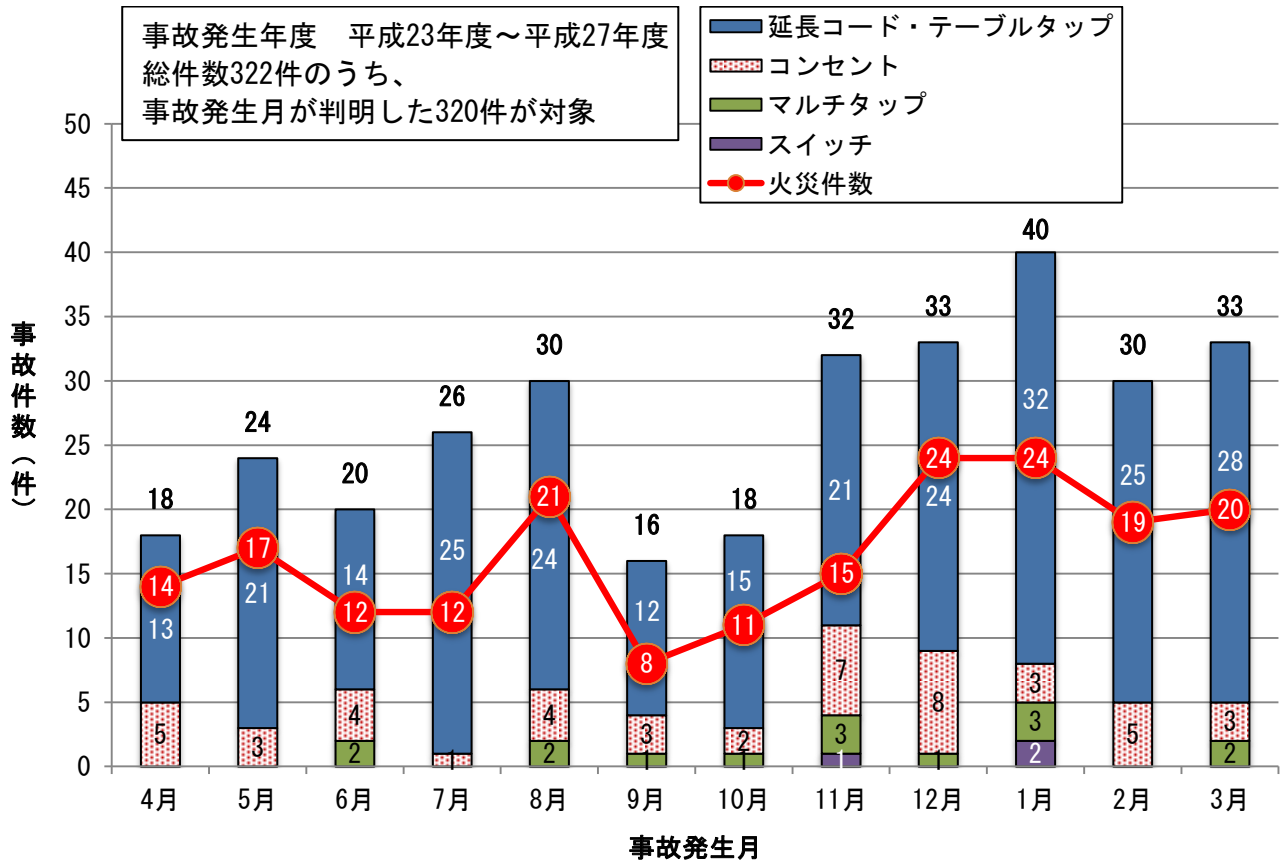


図3 製品別 月別 事故件数

(3) 事故原因区分別 被害状況

図4に「事故原因区分別 被害状況」を示します。

事故原因区分（別紙1参照）に基づいて分類すると、

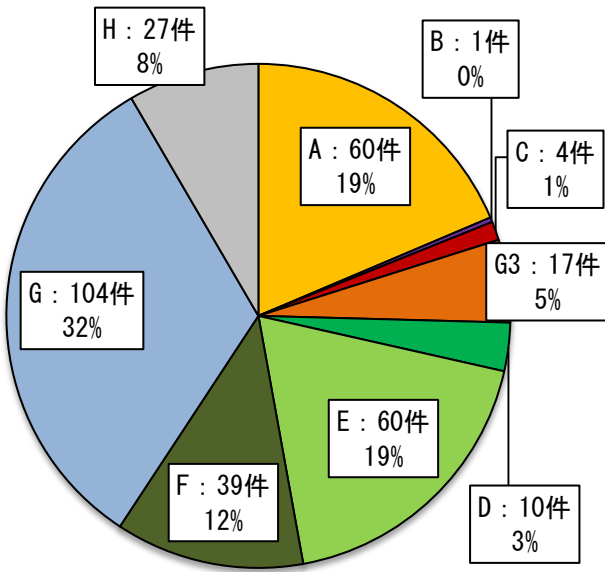
- 製品に起因する事故（事故原因区分 A、B、C、G3） 82 件（25%）
- 製品に起因しない事故（事故原因区分 D、E、F） 109 件（34%）
- 原因不明のもの（事故原因区分 G3 を除く G） 104 件（32%）
- 調査中のもの（事故原因区分 H） 27 件（8%）

となっています。

配線器具の事故では、「製品に起因しない事故」が109件（34%）と最も多く、その中でも特に「E：誤使用や不注意によるもの」が60件あり、死亡事故が3件、重傷事故が1件（死亡者4人、重傷者2人）発生しています。

次いで、「原因不明のもの」が104件（32%）あり、死亡事故が4件、重傷事故が1件（死亡者10人、重傷者1人）発生しています。

事故発生年度 平成23年度～平成27年度
総件数322件が対象



原因区分	被害状況	人的被害			物的被害		被害なし	合計
		死亡	重傷	軽傷	拡大被害	製品破損		
製品に起因する事故	A: 設計・製造又は表示等に問題があったもの			8 (8) [2]	18 [2]	34 [4]		60 (8) [8]
	B: 製品及び使い方に問題があったもの					1 [1]		1 (0) [1]
	C: 経年劣化によるもの				4 [4]			4 (0) [4]
	G3: 製品起因であるが、その原因が不明のもの				9 [5]	8 [2]		17 (0) [7]
小計	事故件数	0	0	8	31	43	0	82
	被害者数	(0)	(0)	(8)	(0)	(0)	(0)	(8)
	火災件数	[0]	[0]	[2]	[11]	[7]	[0]	[20]
製品に起因しない事故	D: 施工、修理又は輸送等に問題があったもの				6 [4]	4 [2]		10 (0) [6]
	E: 誤使用や不注意によるもの	3 (4) [3]	1 (2) [1]	3 (5) [2]	38 [31]	15 [12]		60 (11) [49]
	F: その他製品に起因しないもの		1 (2) [1]	2 (2) [2]	34 [32]	1 [1]	1	39 (4) [36]
	小計	事故件数	3	2	5	78	20	1
	被害者数	(4)	(4)	(7)	(0)	(0)	(0)	(15)
	火災件数	[3]	[2]	[4]	[67]	[15]	[0]	[91]
G: 原因不明のもの (G3を除く)		4 (10) [4]	1 (1) [1]	2 (2)	74 [55]	23 [4]		104 (13) [64]
H: 調査中のもの			1 (1) [1]		21 [18]	4 [3]	1	27 (1) [22]
合計	事故件数	7	4	15	204	90	2	322
	被害者数	(14)	(6)	(17)	(15)	(29)	[0]	(37)
	火災件数	[7]	[4]	[6]	[151]	[29]	[0]	[197]

図4 事故原因区分別 被害状況※4

(※4) 平成28年12月28日現在、重複、対象外情報を除いた事故発生件数。()は被害者数。[]は火災件数。
人的被害と物的被害が同時に発生している場合は、人的被害の最も重篤な分類でカウントし、物的被害には重複カウントしない。製品本体のみの被害（製品破損）に留まらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすことを「拡大被害」としている。

(4) 被害状況別 事故発生箇所別 事故件数

配線器具の事故 322 件のうち、製品に起因しない事故 109 件について、図 5 に「被害状況別 事故発生箇所別 事故件数」を示します。

電源コードや電源タップ（延長コードやテーブルタップの本体部分、P.2 参照）における事故が多く、それぞれ 32 件、31 件発生しています。また火災を伴う割合も高く、電源コードでは 32 件中 25 件（78%）、電源タップでは 31 件中 30 件（97%）が火災事故となっています。

表 1-1「電源コードに関する事故の現象別 被害状況」に示すように、電源コードが溶融、または発火した事故では、

- 「電源コードを束ねたりコードリールを巻いたまま使用したりして、まとめたコード部分から異常発熱」したもの（死亡者 1 人、重傷者 1 人）
- 「延長コードなどの改造・修理で不適切な接続（ねじり接続等）を行ったため、接触不良が生じ異常発熱」したもの（死亡者 2 人）

などが発生しています。

また、表 1-2「電源タップやコンセント、電源プラグに関する事故の現象別 被害状況」に示すように、電源タップやコンセント、電源プラグが溶融、または発火した事故では、

- 「電源プラグの栓刃間にほこりが付着したり、水槽の近くなどで使用し電源タップ内部に水分等が浸入したりしたため、トラッキング現象が生じて発火」したもの（重傷者 1 人）
- 「テーブルタップ等の定格を超えて電気製品を接続したため、電源プラグなどが異常発熱」したもの（死亡者 1 人）

などが発生しています。

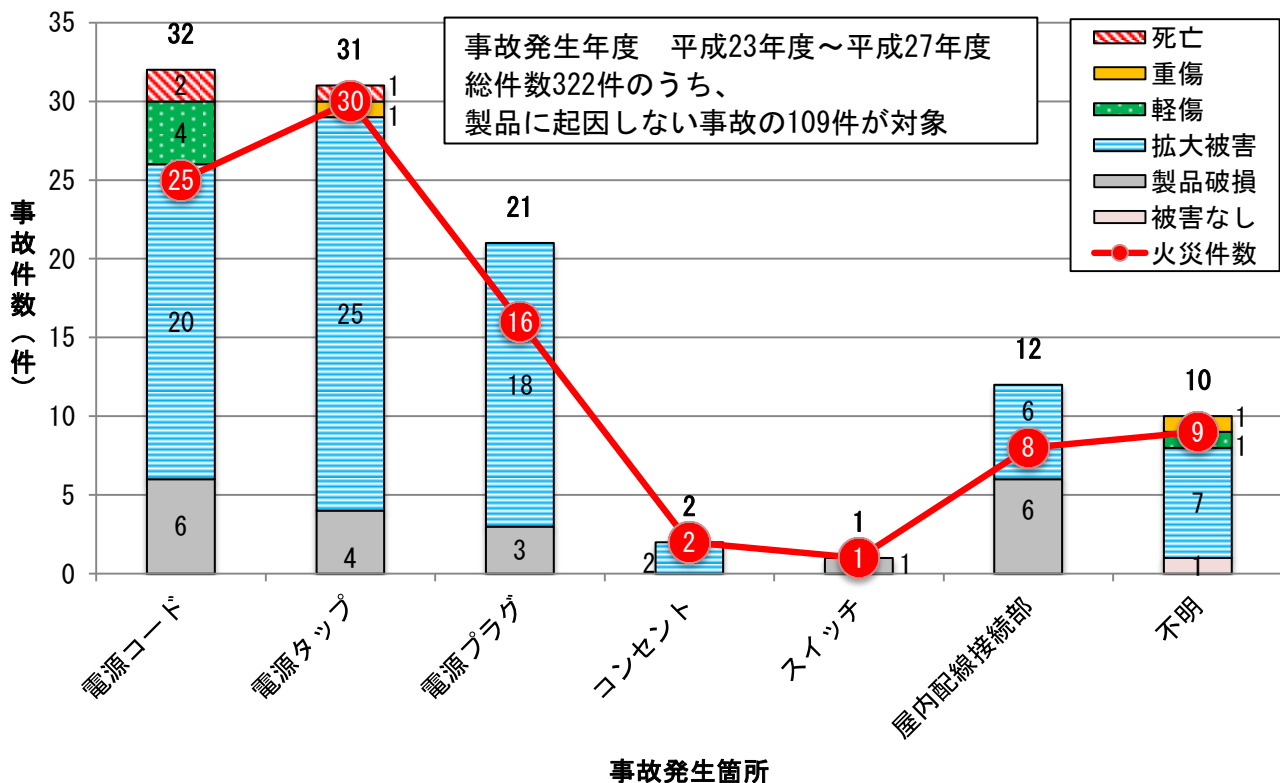


図 5 被害状況別 事故発生箇所別 事故件数^{※5}

(※5) 事故発生箇所の「屋内配線接続部」については、P.2 (※1) (1) 各配線器具の名称「コンセント」の項目を参照。

表 1-1 電源コードに関する事故の現象別 被害状況^{※4}

被害状況 現象	人的被害			物的被害		被害なし	合計
	死亡	重傷	軽傷	拡大被害	製品破損		
電源コードに繰り返しの屈曲や過度な荷重が加わったため、断線してショートし発火			2 (2) [2]	17 [13]	4 [3]		23 (2) [18]
テーブルタップ等の定格を超えて電気製品を接続したため、電源コードなどが異常発熱			1 (1)	1 [1]			2 (1) [1]
電源コードを束ねたりコードリールを巻いたまま使用したりして、まとめたコード部分から異常発熱	1 (1) [1]	(1)	1 (3) [1]	1 [1]	1 [1]		4 (5) [4]
延長コードなどの改造・修理で不適切な接続（ねじり接続等）を行ったため、接触不良が生じ異常発熱	1 (2) [1]				1		2 (2) [1]
その他				1 [1]			1 (0) [1]
合計	2 (3) [2]	0 (1) [0]	4 (6) [3]	20 (0) [16]	6 (0) [4]	0 (0) [0]	32 (10) [25]

表 1-2 電源タップやコンセント、電源プラグに関する事故の現象別 被害状況^{※4}

被害状況 現象	人的被害			物的被害		被害なし	合計
	死亡	重傷	軽傷	拡大被害	製品破損		
電源プラグの栓刃間にほこりが付着したり、水槽の近くなどで使用し電源タップ内部に水分等が浸入したりしたため、トラッキング現象が生じて発火		1 (1) [1]		21 [19]	4 [4]		26 (1) [24]
外力によって電源プラグ栓刃や差込口の刃受け金具が変形したため、接続した際接触不良が生じて異常発熱				9 [7]	1 [1]		10 (0) [8]
テーブルタップ等の定格を超えて電気製品を接続したため、電源プラグなどが異常発熱	1 (1) [1]			3 [2]	2 [2]		6 (1) [5]
電源タップ内部に雨水などの液体が浸入したため、ショートして発火				2 [2]			2 (0) [2]
電源プラグ栓刃の根元に金属など導電性の異物が接触したため、ショートして発火				2 [2]			2 (0) [2]
その他				8 [7]			8 (0) [7]
合計	1 (1) [1]	1 (1) [1]	0 (0) [0]	45 (0) [39]	7 (0) [7]	0 (0) [0]	54 (2) [48]

(※4) 平成 28 年 12 月 28 日現在、重複、対象外情報を除いた事故発生件数。() は被害者数。[] は火災件数。
人的被害と物的被害が同時に発生している場合は、人的被害の最も重篤な分類でカウントし、物的被害には重複カウントしない。製品本体のみの被害（製品破損）に留まらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすことを「拡大被害」としている。

2. 配線器具の事故事例と気をつけるポイント

① 電源コードに関する事故事例と気をつけるポイント

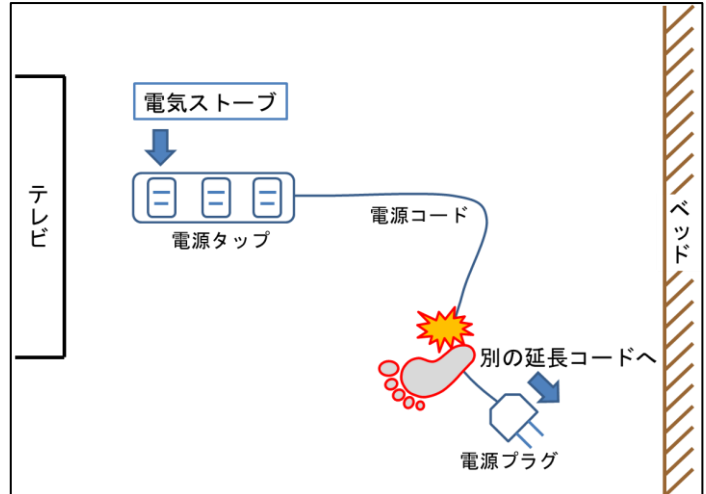
イ) 平成 26 年 1 月 9 日（兵庫県、70 歳代・男性、軽傷）

【事故の内容】

延長コードに接続されたテーブルタップに電気ストーブを接続して使用していたところ、周辺を焼損する火災が発生し、1人がやけどを負った。

【事故の原因】

使用者は視覚障がい者で、テーブルタップの電源コードが使用者の動線上にあったため、気づかず繰り返し踏みつけるなどして、電源コードが強く圧迫され、断線が生じて発火したと考えられる。



(図) テーブルタップの設置状況

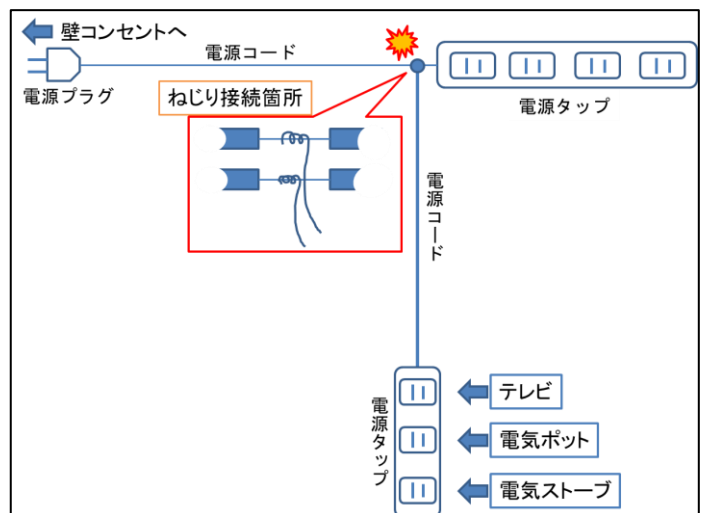
ロ) 平成 27 年 3 月 16 日（神奈川県、10 歳代・50 歳代、女性、死亡）

【事故の内容】

使用中のテーブルタップ付近から発火して、住宅の一部を焼損し、2人が死亡した。

【事故の原因】

事故品のテーブルタップの電源コードに他のテーブルタップの電源コードをねじり接続したため、接続箇所で接触不良が生じて異常発熱し、発火したと考えられる。



(図) テーブルタップの接続状況

電源コードの気をつけるポイント

○電源コードに過度な荷重をかける使い方をしない

延長コードやテーブルタップの電源コードをねじる、踏みつける、といった過度な荷重をかける使い方をすると、電源コードの芯線が断線して、異常発熱や発火の原因となるおそれがあります。（ページ下部「(参考) 電源コードの断線・ショート仕組み」を参照。）

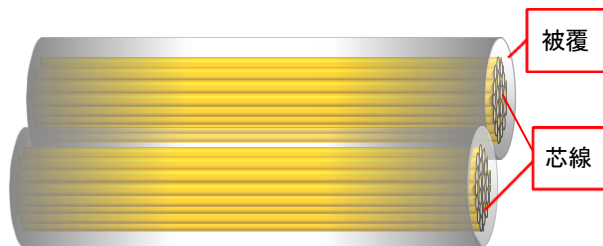
以下の内容に注意し、コードに過度な荷重をかける使い方はしないでください。

<注意事項>

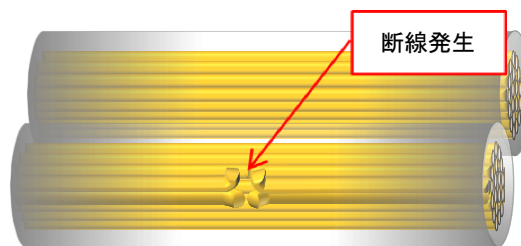
- 延長コードやテーブルタップ等の電源コードは、束ねたままの状態で使用しない。
- 電源コードをドアなどに挟み込んだりしないように、設置場所に注意する。
- 高齢者や視覚障がい者がいる家庭では、移動の際に電源コードを踏み付けることがないように、ご家族や介護の方が設置場所に気をつける。
- 施設内で使用するときには、配線カバーを使用するなどして、キャスターなどが通過する際に電源コードに直接荷重が加わらないようにする。
- 電源コードを釘や絶縁ステップル等の金具で固定しない。
- 電源プラグをコンセントから抜くときは、電源コードを引っ張らず、電源プラグを持って抜く。

(参考) 電源コードの断線・ショート仕組み

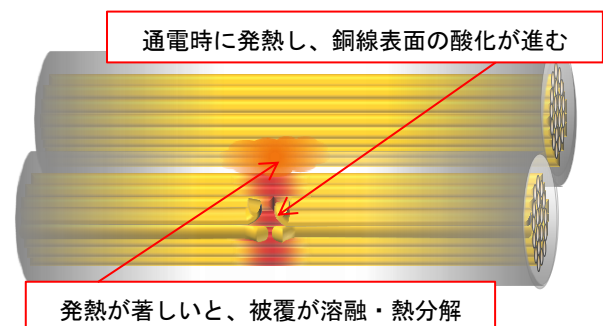
電源コードが断線してショートする過程を次の①～④で示します。



- ① 正常時の電源コード芯線の様子
 (※) 点線部はコードの被覆部を透明にして、内部の素線を見えるようにしたもの。

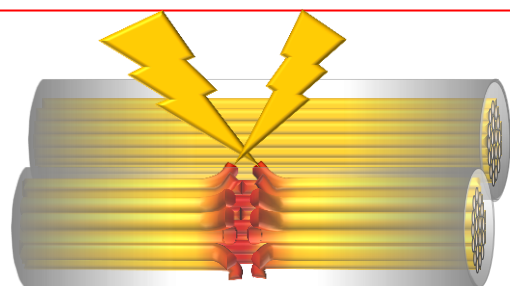


- ② 使用中の屈曲や引っ張り等によって素線の一部が断線した状態（断線初期）
 このまま使用を続け、さらに過重、負荷等をうけると、断線箇所や断線本数が増えていきます。



- ③ 素線が部分的に断線した電源コードに電流を流すと、断線部分では電流の通り道が細くなっているため、その部分で温度が上昇し、絶縁被覆が熱分解されます。

被覆の溶融や断線進展による芯線の突き抜けでショート



- ④ 電流の通り道が細くなることによる異常発熱によって、絶縁被覆（樹脂）が破壊されます。
 過負荷やコードを束ねて使用していた等の条件が重なると、異極間の芯線が接触してショートする場合があります。

○ねじり接続等、電源コードの改造や不適切な修理を行わない

延長コードやテーブルタップの電源コードを、ねじり接続などによって他の電源コードと途中接続する、断線部分をビニールテープで補修する等、改造や不適切な修理は絶対に行わないでください。接触不良によって発煙・発火するおそれがあります。



(写真)コードのねじり接続の様子

② 電源タップやコンセント、電源プラグに関する事故事例と気をつけるポイント

イ) 平成 27 年 1 月 2 日（滋賀県、40 歳代・男性、拡大被害）

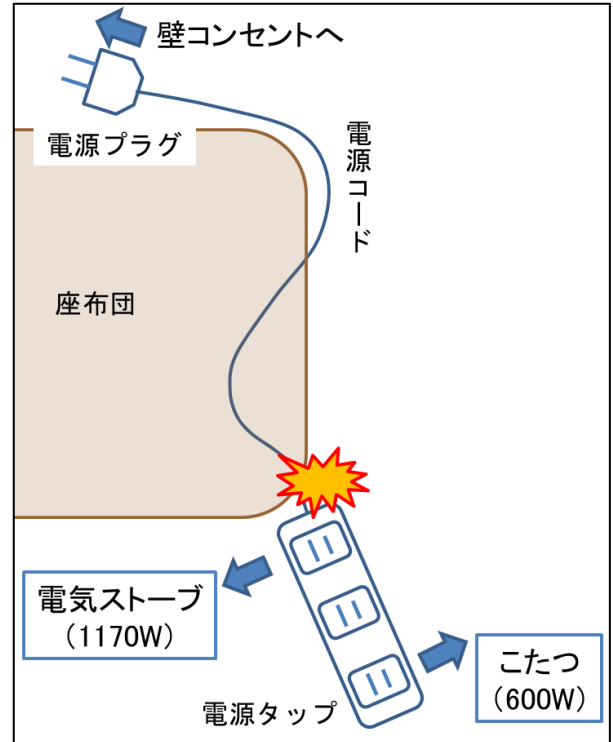
【事故の内容】

テーブルタップに電気ストーブとこたつを接続して使用していたところ、電源タップ付近から発火し、周辺を焼損した。

【事故の原因】

電源タップ側のコードプロテクター付近に過度な荷重が繰り返し加わり、芯線が半断線状態となったこと、かつ接続可能な最大消費電力を超えて、電気製品を接続（電気ストーブ（1170 ワット）、こたつ（600 ワット）を接続）して使用したことから、断線箇所ですパークが生じ、発火して焼損したと考えられる。

なお、取扱説明書には、「合計 1500 ワット以下で使う」旨、記載されている。



(図) テーブルタップの接続状況

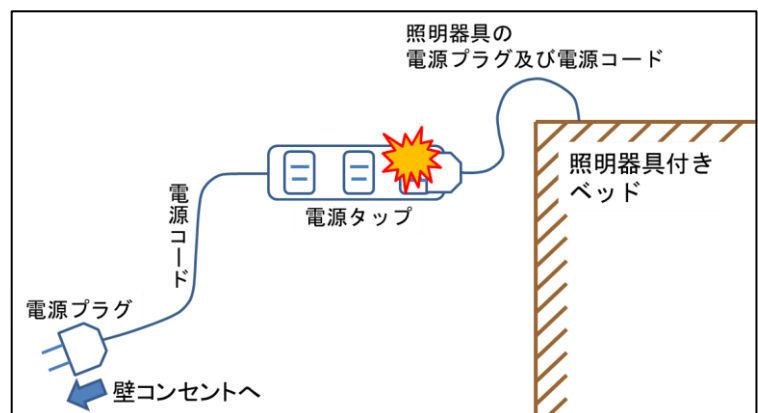
ロ) 平成 28 年 2 月 13 日（富山県、年齢性別不明、拡大被害）

【事故の内容】

照明器具付きベッドの電源プラグをテーブルタップに接続して使用していたところ、電源タップ付近から発火し、2 階を全焼する火災が発生した。

【事故の原因】

照明器具の電源プラグを電源タップに接続したまま長期間使用していたため、接続部にほこり等が蓄積し、トラッキング現象が生じて焼損したと考えられる。



(図) テーブルタップの接続状況

電源タップやコンセント、電源プラグの気をつけるポイント

○接続可能な最大消費電力を超えて使用しない

コンセントやテーブルタップには接続可能な消費電力が定められています。電気製品を接続する際は、最大消費電力を超えないよう注意してください。

接続できる電気製品の消費電力は、テーブルタップ本体やパッケージに記載されているほか、メーカーのホームページ等で確認することができます。

複数の電気製品を接続する際は、それぞれの消費電力を確認し、合計が超えないよう注意してください。

コードリールの場合、電源コードを全て引き出して使用するものや、電源コードを引き出した状態と収納した状態とで接続可能な最大消費電力が異なるものがありますので、使用する際は取扱説明書や製品に記述された指示・警告文を確認してください。



合計1500ワットまで

(写真)

配線器具等に記載された最大消費電力の例

○電気ストーブやエアコン等、消費電力の大きな機器に延長コード等は使用しない

電気ストーブや電気温風暖房機、オイルヒーターなど、消費電力の大きな電気製品の中には、延長コードやテーブルタップ等の使用を禁止している製品があります。また、エアコンは始動時に一時的に大電流が流れることがあるため、接続可能な消費電力の範囲内であっても、テーブルタップや延長コード等を使用すると異常発熱し、発煙・発火するおそれがあります。事前に接続する電気製品の取扱説明書を確認し、記載されている指示に従ってください。

[参考]主な電気製品の消費電力の目安 (NITE 作成、単位：ワット (W))

※冬場に使用頻度が高まる製品には網掛けをして強調しています。

製品名	消費電力	製品名	消費電力
アイロン	1,200~1,400W	オイルヒーター	500~1,500W
ヘアドライヤー	600~1,200W	電気ストーブ	200~ 800W
掃除機	1,000~1,100W	電気温風暖房機	600~1,200W
電子レンジ (30 Wクラス)	1,500W	電気カーペット	250~ 750W
ホットプレート	1,300W	電気こたつ	500W
オーブントースター	1,300W	電気あんか	30W
食器洗乾燥機	1,200~1,300W	エアコン (100 ボルト)	440~1,040W
炊飯器	350~1,200W	除湿機	300~ 600W
冷蔵庫	150~ 500W	加湿器	200~ 300W
電気ケトル	1,200~1,400W	空気清浄機	100W
プラズマテレビ (50 インチ)	400~ 500W		
液晶テレビ (50 インチ)	120~ 160W		

○電源プラグはコンセントにしっかりと差し込み、定期的にほこりを掃除する

電源プラグは、コンセントとの間に隙間が生じないようにしっかりと差し込み、定期的に掃除してほこりを取り除いてください。

電源プラグとコンセントとの間に隙間がある、長期間コンセントに差したままにすると、電源プラグに異物が接触したり、ほこりや水分が付着したりするなどによって、ショートやトラッキング現象（「(参考)トラッキング現象の仕組み」を参照）が生じるおそれがあります。

配線器具等の事故には、ショートやトラッキング現象が生じた際に周囲の可燃物に着火して火災に至った例もあります。コンセントや電源プラグ差し込み口の近くに衣類や布団等の可燃物は置かないでください。

○コンセント、電源タップ内部への水分や洗剤、異物の浸入に注意する

コンセントやテーブルタップ内部に水分、洗剤、異物が浸入すると、ショートやトラッキング現象が生じるおそれがあります。

延長コードやテーブルタップ等は、水槽の周囲や台所、洗面所など水がかかる場所での使用は避けてください。

コンセントや延長コード、テーブルタップ等の中には、ほこりや液体、異物が入り込まないように、差込口にシャッターがついた製品も販売されています。

また、コンセントや電源プラグに装着して、ほこりや液体、異物が入り込まないようにしているコンセントカバーも販売されています。

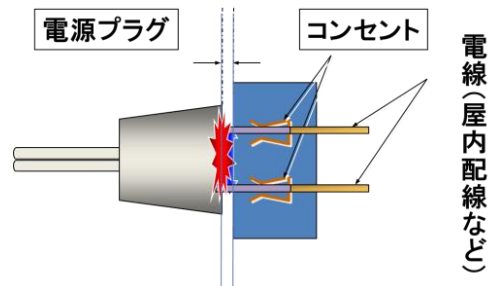
(写真)差込口にシャッターがついたコンセント



(参考) トラッキング現象の仕組み

コンセントや延長コード、テーブルタップ等に電源プラグを長期間差し込んだままにしていると、コンセントや電源プラグの周囲にほこりや水分が付着します。

付着したほこりや水分によって、電源プラグ栓刃の間に微弱な電流が流れる状態となり、火花放電を繰り返すことによって電源プラグの樹脂部分が徐々に炭化して、発火へと至る現象を「トラッキング現象」といいます。



お問い合わせ先

独立行政法人製品評価技術基盤機構 製品安全センター 所長 嶋津 勝美
担当者 穴井、田代

- 記者説明会当日
電話：03-3481-6566 FAX：03-3481-1870
- 記者説明会翌日以降
電話：06-6612-2066 FAX：06-6612-1617

事故原因区分について

本文中では、事故原因区分を以下の表のように分類しています。

表 事故原因区分一覧

	区分 記号	本文表記	事故原因区分
製品に起因する事故	A	設計、製造又は表示等に問題があったもの	専ら設計上、製造上又は表示に問題があったと考えられるもの
	B	製品及び使い方に問題があったもの	製品自体に問題があり、使い方も事故発生に影響したと考えられるもの
	C	経年劣化によるもの	製造後長期間経過したり、長期間の使用により性能が劣化したと考えられるもの
	G3	製品起因であるが、その原因が不明のもの	製品に起因するが、その原因が不明なもの
製品に起因しない事故	D	施工、修理、又は輸送等に問題があったもの	業者による工事、修理、又は輸送中の取扱い等に問題があったと考えられるもの
	E	誤使用や不注意によるもの	専ら誤使用や不注意な使い方と考えられるもの
	F	その他製品に起因しないもの	その他製品に起因しないか、又は使用者の感受性に関係すると考えられるもの
その他	G	原因不明のもの（G3は除く）	焼損が著しいなどによって、原因が特定できず不明なもの 事故品が入手できないなど調査が行えないもの
	H	調査中のもの	調査中のもの

製品別 使用期間別 事故件数について

以下の図に、「製品別 使用期間別 事故件数」を示します。

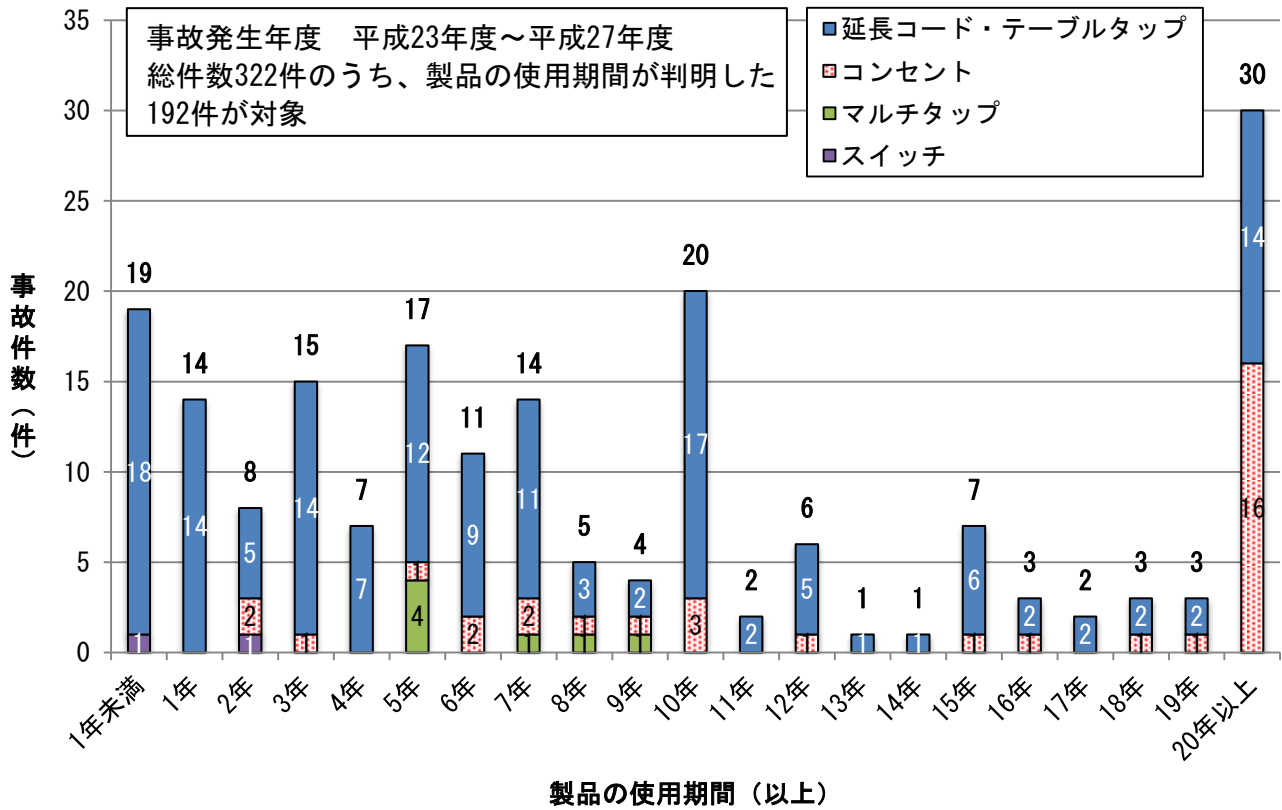


図 製品別 使用期間別 事故件数

死亡・重傷事故の概要について

以下に参考情報として、死亡・重傷事故の被害状況の概要を示します。

No	発生日	発生場所	品名	被害状況	事故原因
①	平成 23 年 5 月 25 日	愛知県	延長コード	住宅 2 階部分焼損 80 歳代・男性 1 人、他 6 人死亡	焼損が著しく原因不明 (事故原因区分：G)
②	平成 23 年 10 月 13 日	埼玉県	テーブルタ ップ	周辺を焼損する火災 10 歳未満・男児 1 人 重傷 (やけど)	故障状態で使用を継続 (事故原因区分：E)
③	平成 24 年 11 月 6 日	愛知県	テーブルタ ップ	周辺を焼損する火災 60 歳代・男性 1 人、 60 歳代・女性 1 人重傷 (やけど)	製品に起因しない事故 (事故原因区分：F)
④	平成 25 年 2 月 16 日	愛知県	テーブルタ ップ	住宅 2 棟など計 4 棟焼 損 30 歳代・女性 1 人死亡	電源コードを挟み込んだ可能性 があるが、断線部の溶融痕が 1 次痕か 2 次痕か判定できず原因 不明 (事故原因区分：G)
⑤	平成 25 年 12 月 28 日	宮城県	製品不明 (電源コー ドのみ)	住宅全焼 60 歳代・男性 1 人死亡	電源タップ部分が未回収で確認 できなかったため原因不明 (事故原因区分：G)
⑥	平成 26 年 1 月 2 日	滋賀県	コードリー ル	住宅全焼 20 歳代・男性 1 人死亡、 他 1 人重傷、2 人軽傷	コードリールに定格を超える電 気製品を接続 (事故原因区分：E)
⑦	平成 26 年 1 月 27 日	石川県	延長コード	住宅全焼 70 歳代・女性 1 人死亡	エアコンの電源プラグを延長コ ードに接続 (事故原因区分：E)
⑧	平成 26 年 4 月 28 日	愛知県	テーブルタ ップ	住宅半焼 50 歳代・女性重傷 (や けど)	コードプロテクター付近で断線 していたが、断線部の溶融痕が 1 次痕か 2 次痕か判定できず原因 不明 (事故原因区分：G)
⑨	平成 27 年 3 月 16 日	神奈川県	テーブルタ ップ	住宅の一部を焼損 50 歳代・女性 1 人、 10 歳代・女性 1 人死亡 (CO 中毒)	延長コードの改造 (事故原因区分：E)
⑩	平成 27 年 11 月 21 日	愛知県	延長コード	住宅全焼 80 歳代・男性 1 人死亡	確認できない部品があるため原 因不明 (事故原因区分：G)
⑪	平成 28 年 3 月 29 日	山口県	テーブルタ ップ	周辺を焼損する火災 60 歳代・男性 1 人重傷	調査中 (事故原因区分：H)

電源プラグとコンセントにおける事故を防止するための技術基準について※

※経済産業省 電気用品安全法のホームページを参照。

(<http://www.meti.go.jp/policy/consumer/seian/denan/topics.html#5>)

1. 電源プラグのトラッキング現象の防止

電源プラグのトラッキング現象による事故を防止するため、水回りで多く使用される電気冷蔵庫・冷凍庫を対象に、電気用品安全法に基づく「電気用品の技術上の基準を定める省令の解釈について」において、電源プラグに耐トラッキング性を持たせるための技術基準が定められています。

一方で、水回りに設置した製品以外でもトラッキング現象による事故が生じている状況をふまえ、平成 26 年 9 月からは電源プラグ、マルチタップ、ダイレクトプラグイン機器、漏電遮断器が、平成 27 年 1 月からは家庭内で日常的に使用される全ての電気製品において耐トラッキング性が要求されることとなりました。

平成 28 年 3 月 17 日までの移行期間の後、家庭内で日常的に使用される全ての電気製品は、耐トラッキング性を有するものが製造・輸入されることとなります。

(1) これまでの経緯

① 電気冷蔵庫・冷凍庫の電源プラグに耐トラッキング性が要求事項として策定

(平成 21 年 9 月 11 日 改正：移行期間は平成 22 年 8 月 31 日まで)

電気冷蔵庫・冷凍庫に使用されている電源プラグは比較的大電流が常時通電しており、また、湿気の高い場所に設置されることが多いため、トラッキング現象を防止するため、電源プラグの耐トラッキング性を個別要求事項として規定。

② 電源プラグ、ダイレクトプラグイン機器、漏電遮断器等に適用範囲を拡大

(平成 26 年 9 月 18 日 改正：移行期間は平成 27 年 9 月 17 日まで)

トラッキング現象が、台所などの水回りに設置した製品以外でも発生している状況をふまえて、電源プラグ単体や本体に栓刃を有する機器（マルチタップ、ダイレクトプラグイン機器、漏電遮断器等）を対象に、耐トラッキング性を要求事項として規定。

③ 家庭内で日常的に使用される全ての電気製品に適用範囲を拡大

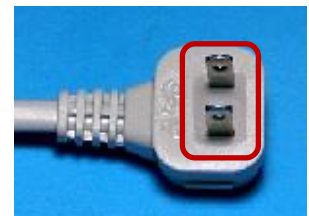
(平成 27 年 1 月 16 日 改正：移行期間は平成 28 年 3 月 17 日まで)

トラッキング現象が、台所などの水回りに設置した製品以外でも発生している状況をふまえて、家庭内で日常的に使用される全ての電気製品を対象に、耐トラッキング性を要求事項として規定。

(2) 耐トラッキング性の要求事項

電源プラグの耐トラッキング性の要求事項として、次の①及び②が定められています。

- ① コンセントとの突き合わせ面に接する電源プラグ外面で栓刃に直接接する絶縁材料について、一定の耐トラッキング性能（トラッキングの起こりにくさ）を有すること。



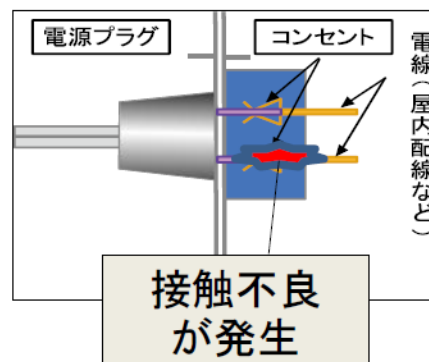
- ② 栓刃間を保持する絶縁材料について、一定の耐火性を有すること。



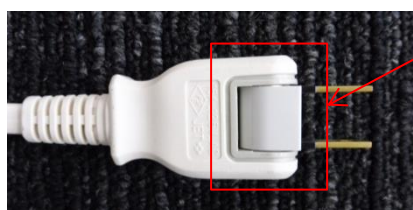
2. 電源プラグとコンセントの接触不良の防止

使用中の電源プラグの横方向に力が加わり、コンセントの刃受け金具の間隔が開くことにより、栓刃と刃受け金具の接触部で接触不良が生じたり、延長コードやテーブルタップに多くみられる可動式電源プラグの可動部で接触不良が生じたりすることで、異常発熱により火災等が発生しています。

これらの接触不良による事故を防止するため、「電気用品の技術上の基準を定める省令の解釈について」において、平成27年7月24日より、コンセントや可動式プラグについて、以下のとおり要求事項が追加されました。（移行期間は平成28年7月24日まで）



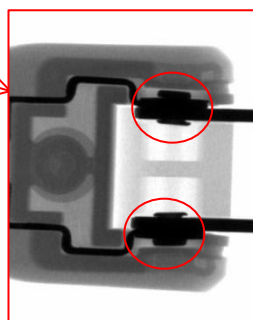
(図) 電源プラグとコンセントの接触不良の様子



(図) 可動式プラグ

可動部

拡大・透視



栓刃と、土台となる金具をリベットで固定しているため、繰り返し可動することで間隔が広がり、接触不良が生じるおそれがある。

○金属接触部の過熱対策の要求事項

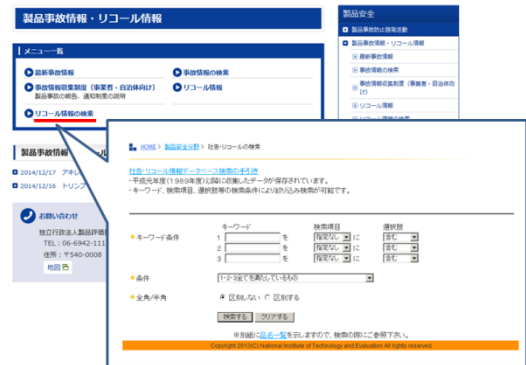
コンセント等における金属接触部の過熱対策の要求事項として、次の①及び②が定められています。

- ① 【コンセント】コンセントに差し込んだ試験用プラグに、通常使用状態の横方向に荷重を加えた場合であっても試験用プラグがコンセントから抜けないこと。
加えて、荷重を加えた後の開閉試験後の温度上昇が定められた範囲内であること。
- ② 【テーブルタップ(延長コードセット)の可動式プラグ】定格電流を流した状態で、可動範囲で連続して回転した後の温度上昇が定められた範囲内であること。

リコール情報について

NITE ホームページにおいて、平成元年度（1989 年度）以降にメーカーや販売事業者などの事業者が行ったリコール情報を収集したデータベースを公開しており、リコール情報の検索を行うことができます。

なお、NITE に通知された、配線器具のリコール情報については、次ページ以降に記載しています。



<http://www.jiko.nite.go.jp/php/shakoku/search/index.php>

検索サイトを利用する場合は、「NITE リコール」等の単語で検索してください。



公表日	品名	事業者名称	社告内容
2015/9/24	延長コード	株式会社セリア 法人番号 4200001013662	<p>[製品名及び型式] 製品名：延長コード ・差し込み口数：1 長さ・色：1.5m・白、1.5m・黒、1m・白、20cm・白 ・差し込み口数：3 長さ／色：1m・白 [URL]http://www.seria-group.com/info/20150924.html</p>
2014/7/9	テーブルタップ	コーナン商事株式会社 法人番号 3120101003135	<p>[製品名及び型式] ・製品名：延長コード・テーブルタップ 型式：KJ08-1155、KJ08-1162、KJ08-1179、 KJ08-1186、KJ08-2277、KJ08-2284、 KJ08-2771、KJ08-2788、KJ08-6506、 KJ08-6513、KJ08-6520、KJ08-6537、 KJ08-9397、KJ08-9403、 KMT08-2720、KMT08-2737 KR08-1322、KR08-1339、KR08-1346 KR08-1353 [URL]http://www.kohnan-oshirase.com/recall/productlist/0011/000002</p>

公表日	品名	事業者名称	社告内容
2012/9/13	テーブルタップ	<p>大和電器株式会社（製造） 法人番号 1010701005543</p> <p>朝日電器株式会社（販売） 法人番号 2122001015228</p>	<p>[製品名及び型式] 配線スイッチ付テーブルタップ プラン名：ELPA 商品名：スイッチ付タップ 3個口 型番：WLS-N31EB (W)、WLS-N32EB (W)、WLS-N33EB (W)、WLS-N35EB (W)、WLS-N31EBD (W)、WLS-N33EBD (W)、WLS-N35EBD (W) 商品名：スイッチ付タップ 4個口 型番：WLS-N41EB (W)、WLS-N42EB (W)、WLS-N43EB (W)、WLS-N42EBD (W) 商品名：スイッチ付タップ 6個口 型番：WLS-N61EB (W)、WLS-N62EB (W)、WLS-N63EB (W) 商品名：プレミアムタップ 5個口 型番：WBS-N3B (RD)、WBS-N3B (BL)、WBS-N3B (DG)、WBS-N3B (SL)、WBS-N3B (CG) 商品名：耐雷サージタップ 5個口 型番：WLS-5015B (W) 商品名：スイッチ付 耐雷サージタップ 3個口 型番：WBS-301B (W)、WBS-302B (W)、WBS-303B (W)、WBS-305B (W)、WBS-301BD (W)、WBS-303BD (W)、WBS-305BD (W) 商品名：スイッチ付 耐雷サージタップ 4個口 型番：WLS-N41OMB (W)、WLS-N42OMB (W)、WLS-N43OMB (W)、WLS-N45OMB (W)、WLS-N42OMB (W)、WLS-N43OMB (W)、WLS-N41OMB (W) 商品名：スイッチ付 耐雷サージタップ 6個口 型番：WLS-N61OMB (W)、WLS-N62OMB (W)、WLS-N63OMB (W)、WLS-N65OMB (W) 商品名：安全節約タップ 4個口 型番：WBS-N42OSB (W)、WBS-N45OSB (W)、WBS-N410OSB (W)、WBS-N42OSBD (W) 商品名：安全節約タップ 6個口型番：WBS-N62OSB (W)、WBS-N65OSB (W)、WBS-N610OSB (W) [URL]http://www.yamatodenki.com/order/inform-1/</p>